

### そんけい すべき ムスリム の みなさま！

ぜんのう の しゅ (スバーナ ワ タアーラー) は、せい クルアーン において つぎ の ように つげて おられます。「**あなたがた にはすでに アッラー の しと という、アッラー と しゅうまつ の ひ を まちのぞみ、アッラー を おおく おもい おこす もの の ための さいぜん の もはん が ある**」。<sup>1</sup> また、わたしたちの あいする よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) は、ハディース の なか で つぎ の ように かたっています。「**わたし は、ぜんりょう な じんかく を かんせい させる ため に つかわされた**」。<sup>2</sup>

### しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

アッラー の しと (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) は、しんこう や すうはい と いった こと に かぎらず、その じんかく において も あらゆる ひの なか で かんぺきな かた でした。よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) の どうとくせい は クルアーン に ありました。わたしたちの よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) は、クルアーン が めいじるとおりの じんせいを あゆみ、また クルアーン が きんじて いる こと を さげました。

### しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

わたしたちの よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) は、かぞくの ちょうとして おもいやり ぶかく あいじょうに みちて いました。かれ の かてい は へいあん と あい に あふれて いました。かてい ない に ぼうりよく や にくしみ を はいり こませる こと は けつして しません でした。

よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) は、もつとも すぐれた きょうし でも ありました。じんせいの あらゆる そくめん について きょうゆう たち に おしえる とき、かれ は こう かたっています。「**わたし は、ちち の ように あなたがた に おしえよう**」。<sup>3</sup> アッラー の しと (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) は、せいじつ かつ しんじつ で、ぎりがたい ゆうじん でも ありました。

### しんあい なる ムスリム の みなさま！

ことば において も こうどう において も、わたしたち は よげんしゃ (かれ の うえ に しゅくふく と へいあん あれ) を もはんと すべき です。かれ の すばらしい じんかく を みちびき と すること で、わたしたち じしん も また ぜんりょう な じんかく を みにつけ ましょう。すうはい と いう たび を とおして、みずからの たましい を かんせい させて ゆきましよう。みずからの かてい を こそ、ちじょう の らくえん と しましよう。ゆうじん との あいだに、かぞくと の あいだに、せいじつき、しんらい、ちゅうせいの はし を かけましよう。ぜん の ために いま いる このよ を いみ ある もの と し、らいせ を へいあん な もの と しましよう。つぎ の こと を わすれない ように しましよう。「**もつとも ただしい ことば とは アッラー の しよ の こと であり、もつとも すぐれた みちびき とは ムハンマド の こと である**」。<sup>4</sup>

<sup>1</sup> Ahzab, 33/21.

<sup>2</sup> Ibn Hanbal, II, 381.

<sup>3</sup> Ibn Majah, Taharah, 16.

<sup>4</sup> Nasa'i, 'Eidayn, 22.